

2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)

「向上心を持ち、主体的に学びに向かう生徒を育てる
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図り、充実させる」

授業改善の重点

- ・国語: 読解力を養う指導に努め、互いの考えを交流させ、自らの理解や考えを深めて表現できるような授業展開を工夫する。
- ・社会: 既習事項を活用し課題解決を進めることをとおして、個々の考えを深め表現する機会を設定した授業実践を行う。
- ・数学: 基礎基本の定着を図るために、個々の習熟状況把握に努め、それに基づいたきめ細かい指導を実践する。
- ・理科: グループワークを取り入れるなど、より深い学びを実現するための授業展開の工夫を行う。実験の結果に基づき自ら考察を進めていくなどの時間を確保する。
- ・英語: 既習事項を活用した表現活動などをバランスよく取り入れた授業の工夫を行う。
- ・全教科: 自他の考えを相互交流する表現活動(プレゼンテーションの取組の充実)や、理解を深めるための探究活動の指導においてICTの活用実践を積極的に進める。分かる授業の実現に向けて、各教科の工夫改善の共有化を図る。

各教科の指導の重点	国語科	美術科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	○文章読解力の土台となる言語・語彙等の習得指導に力を入れ、読解力の向上につなげる。 ○説明を聞きメモを取らせることで、聞きとる力、聞いて内容を理解する力を高める。 ○単元や授業の学習目標や学習内容を明確に提示し、生徒の学習に対する関心、意欲の向上につなげる。 ○語彙力、読解力、論理的思考力、文章表現力が身につく高まる学習材や発問、授業の展開の仕方、学習ドリルソフトの利用の仕方を常に模索、工夫していく。	○対象物をしっかりと観て実感を持った線や色に表現する。 ○木や石や土などの自然物の持つよさ、美しさを感じて制作をする。 ○西洋・日本、時代による美術作品の違いに触れ味わう ○クロムブックを活用した調べ学習を行う。	○総合的な学習の時間のねらいに基づく指導内容の工夫・改善 ○職場体験の実施 ○MESEの実施	○「特別の教科 道徳」の授業時間の適正な確保と内容の工夫 ○道徳授業地区公開講座の充実
	社会科	保健体育科	特別活動の指導の重点 ○自治的な取り組みを通じた生徒会活動の充実 ○学校図書館活動の充実 ○個性を伸ばし心身を鍛える部活動の充実	
	○写真資料、データなどを活用し、考察し、また、自分の言葉で表現する場を設け、力を身につけていく。 ○ワークシートや学習ドリルソフトを活用し、知識の整理・定着を図る。 ○アクティブラーニングを実施し、基礎的・基本的な知識を深め、一人一人の考えを表現する機会を設けていく。	○社会生活に必要な生きる力や授業で培った力を実践できる力を身につける。 ○自ら考え工夫する力を育てる。生徒がコミュニケーションをとりながら自他共に伸びる授業展開を行っていく。 ○基礎的・基本的な知識と技能を意味づけながら身につける。 ○実習では、事前準備や計画をすることで、先を見越す力を身に付ける。		
	数学科	技術・家庭科		
	○毎時間ごとの宿題を含む家庭学習の定着の推進、間違い直しノートの提出を促すことによる復習の徹底、まとめプリントや学習ドリルソフトを利用し、基礎・基本を徹底する。 ○単元ごとの確認テストの実施による習熟状況の把握を行う。 ○少人数授業にTTを配置し、より細かな指導を行う。 ○協同的探究学習を取り入れることにより、「わかる授業」を確立する。	技 ○社会に出て、生きる力や培ったものを実践できる力を身につける。 ○作業を自ら考え工夫する力を育てる。生徒がコミュニケーションをとりながら自他共に伸びる授業展開をおこなっていく。 家 ○基礎的・基本的な知識と技能を意味づけながら身につける。 ○実習では、事前準備や計画をすることで、先を見越す力を身に付ける。		
	理科	外国語科		
	○発問を工夫したグループワークの展開を考える。 ○実験は少人数で行い、グループ全員で実験に関わる事を基本とした。 ○各単元ごとに復習テスト、学習ドリルソフトなどで振り返りを行い、基礎力の定着を目指す ○体験活動を通して、興味関心を広げる。	○英語の基礎基本である語い力を学習ドリルソフトを活用し身に付けさせる。新出単語の導入時から受容語と発表語の区別を意識して指導にあたりるとともに単語テストを定期的に行う。 ○これからの英語力としての発信力を身につけさせる。発表語を意識したペアワークやグループワークを毎時間行う。その活動をスピーチなどの活動につなげていく		
音楽科				
○歌唱の授業では発声チェックを行い、自分自身の発声に対して向き合える時間を作る。 ○合唱では、パートリーダーや指揮者の育成に力を入れ、どのように練習すれば効率よく上達するのか、どのように音楽を表現するかなどを、話し合い活動を軸に考えさせる。 ○器楽の授業ではペア学習を行い、お互いに指摘しあえる環境を作る。				

協同的探究学習について	小中一貫教育について	自学自習について
○講師を招きICTを活用した協同的探究学習の理解を深め、実践に結びつける。 ○教員の資質向上を目指し、2学期に公開授業を設定する。	○南大谷中、南大谷小学校、町田第5小学校の3校合同で研修会を行い、教科横断型の取り組みについて理解を深める。 ○ICTを活用した授業を小中で一貫して取り組み、次世代の社会に対応できる力を養う。 ○外国語教育について小中で話し合い、スムーズに中学校の外国語教育に取り組めることを目指す。	○放課後の自習教室(サウスウインド)を開設し、生徒たちが学習できる環境を整える。 ○家庭学習の取り組みを呼びかけ、家庭学習の機会を増やす。

本校の授業改善に向けて